

海外土木遺産取材データ

Consultant会誌編集専門委員会

取材地



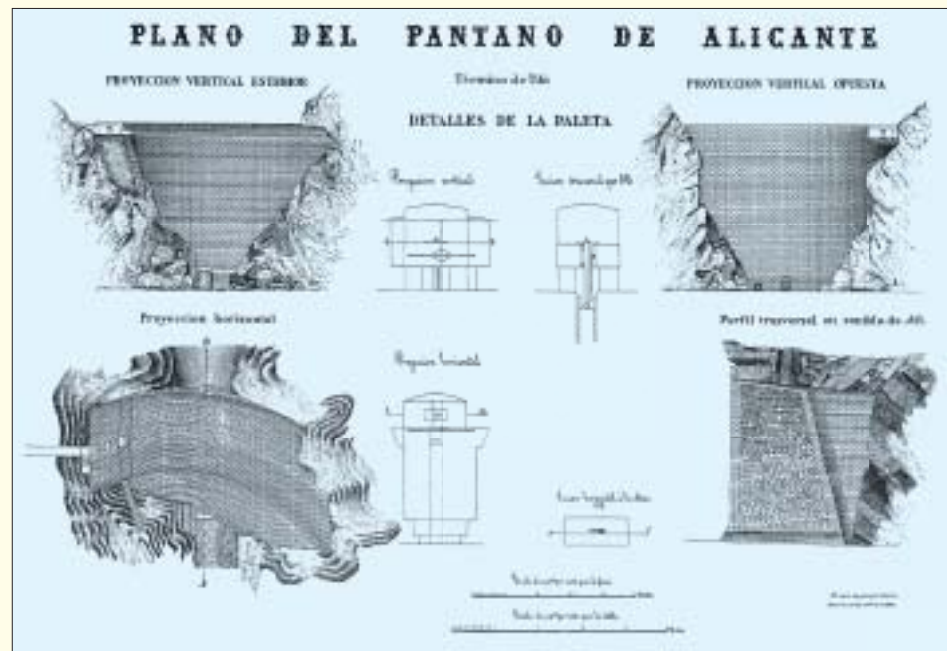
ティビ・ダム(スペイン アリカンテ)

スペイン南東部、地中海沿岸のアリカンテ市中心部より北西へ約20kmに位置するティビ(Tibi)村の西側郊外にある。アリカンテ市は人口約27.5万人。アリカンテ県の県都。現在はコスタ・ブランカ(白い海岸)と称されるリゾート地として栄えている。

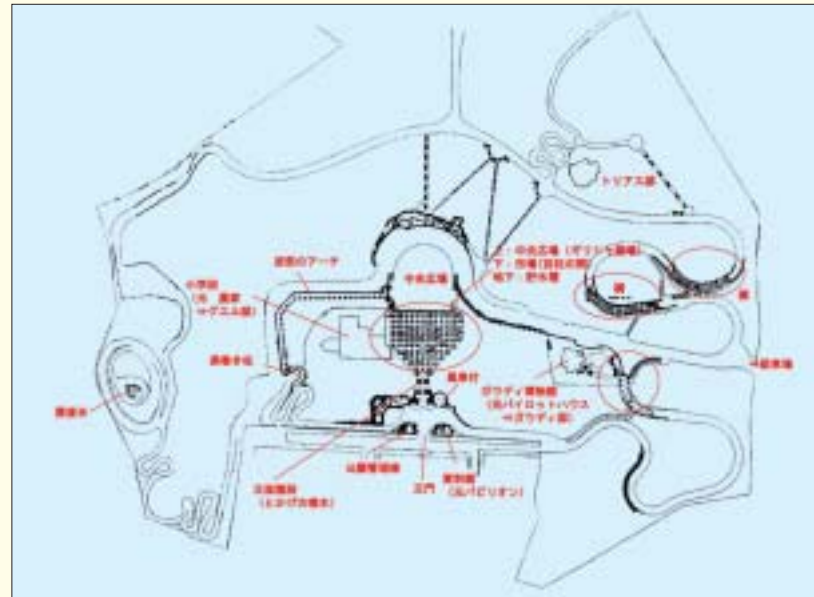
El Pantano De Tibiの諸元

堤高：43.0m
堤頂厚：20.0m
堤基礎厚：34.0m
天端高：382.0m(海拔)
天端堤長：65.0m
下端堤長：12.0m
堤体上流面半径：107.0m
ダム湖水面積：25ha
河川流域面積：267km²
貯水容量(建設初期)：3.7Hm³
貯水容量(2003年現在)：1.5Hm³
貯水湖水深(2003年現在)：13.0m

〈資料提供〉
アリカンテ農地灌漑組合



グエル公園(スペイン バルセロナ)



■国内地図

1902-1913年 建設
1922年 バルセロナ市へ譲渡
1962年 バルセロナ文化遺産
1969年 スペイン文化遺産
1984年 ユネスコ文化遺産
1985-1993年 大規模修繕



■中央広場下の貯水槽



■中央広場を支えるキューブラの補修状況



■建設中のグエル公園

アリカンテの誇り“ティビ ダム”を訪ねて

スペインには中世期に造られ、300年間ハイダムの世界記録を保持した石積ダムがある。国内では殆ど情報の無い、誰も知らないこの土木遺産へ辿り着くために、休日返上の資料探しが春先から開始された。思い余ってスペイン大使館を訪ね、職員と一緒に地図の中から現地名“El Pantano de Tibi”の文字を見つけた。これを手掛りに辞書片手のインターネット検索を繰り返した。だが詳細な場所と道順が判らない。現地管理者を探り出し、旅行会社を通して連絡を取ったが返事が来ない。

途方に暮れていた渡航直前、朗報が飛び込んだ。ダムを管理している“アリカンテ農地灌漑組合(Sindicato de Riegos de la Huerta de Alicante)”のスタッフが案内してくれるという。一転、取材チーム内に気合が入った。

取材当日の天候は予報に反し雨上がりの快晴。SRHAスタッフ2名の案内でダムへ向かう。途中、出迎えてくれたSRHAのカボ会長を始めスタッフ10数名と合流し、彼らの自前のジープに分乗してダム直下へ。邦人案内は初めてという。

目の前に飛び込んできたダムは、紺碧の空の下で白亜の城壁にも似た美しい姿で我々を迎えてくれた。急な監視路を上って天端に上がり、説明を聞きながらの撮影を行った。その後はアリカンテ市街に戻り、質疑応答とお礼を兼ねて会食を持った。現地スタッフの土木遺産を守る気概と誇りに感銘を受けた。見送る彼らの「良い記事を書いて下さい」との言葉を胸に同地を後にした。



■“ティビ・ダム”天端でSRHA職員と一緒に



■会食時のSRHAカボ会長と小松委員長の挨拶

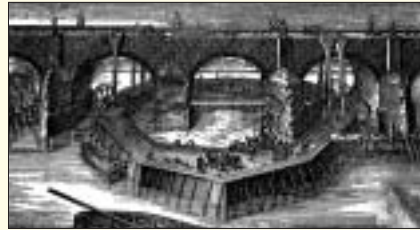


——カレル橋(チェコ プラハ)



■カレル橋付近の絵地図

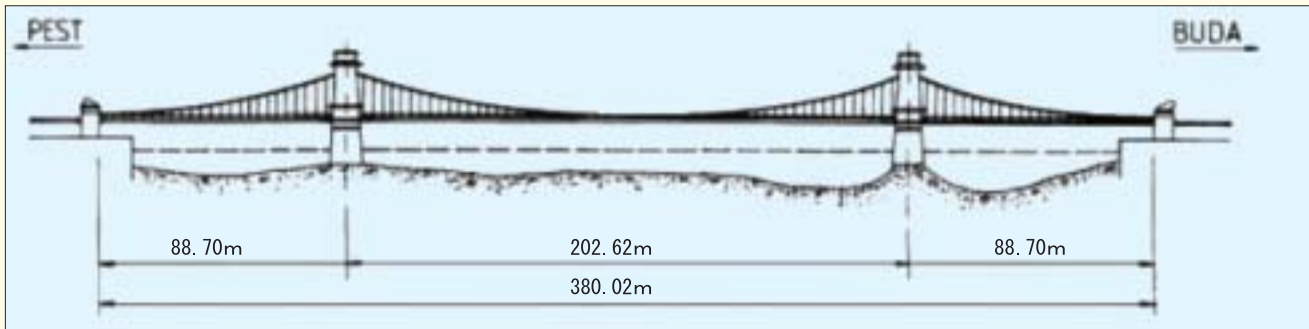
- ・完成：1402年
- ・施工期間：50年
- ・建設者：神聖ローマ帝国カレル4世
- ・設計者：ペトル・パルレーシェ
- ・橋長：515m
- ・幅員：9.5m
- ・径間：15径間
- ・用途：歩道橋



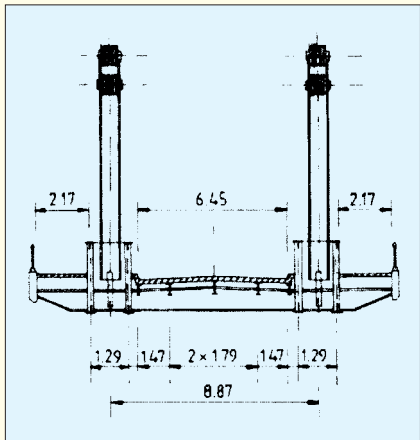
■カレル橋施工絵図



——鎖橋(ハンガリー ブダペスト)



■1947年再建の際の設計図面(出典：Historic Danube Bridges in Budapest, A paper by Miklos Ivanyi, Prof., Budapest University of Technology and Economics, Hungary.)



■同、断面(出典：同上)

歴史

1836年 Szechenyi伯爵が工事をロンドンのテームズ・ブリッジ社のアダム・クラークおよびウィリアム・クラークに委託

1840年 工事開始

1849年 竣工、供用開始(11月20日)

1914年 増加する交通需要に対応するための補強工事

1915年 補強工事完成

1945年 ドイツ軍により破壊

1947年 再建工事

1949年 再建工事完成

1987年 補修工事

1988年 補修工事完成

1989年 ハンガリーの共産圏からの離脱を求めて多くの人々が橋上でデモ。

データ

位 置 ハンガリー・ブダペスト

水 系 ドナウ本川

種 別 道路橋

全 長 380.02m

中央径間 202.62m

幅 員 14.5m

車 道 6.45m(2車線)

歩 道 2.17m(両側)

構造形式 チェーンによる吊橋

橋 塔 石造(建設当時のもの)

上 部 工 鋳鉄(1947年再建のもの)



——ゼンメリング鉄道(オーストリア ウィーン郊外)

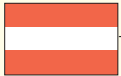


■ゼンメリング鉄道主要区間

- 〈全長〉
- グロッグニッツ駅～ゼンメリング駅ミュルツツーシュラク駅間の41.7km
- 〈最大上り傾斜(北側)〉
- 1：40
- 〈最大上り傾斜(南側)〉
- 1：45
- 〈最大標高差〉 459m
- シュトンネルの898m
- 〈高架橋〉 16箇所
- 最長橋梁：橋長276m(パイヤーバッハ駅付近のシュヴァルツ橋)
- 〈トンネル〉 15箇所

〈参考文献〉

1) Quo Vadis Alpenschule-coaching(<http://www.semmeringalpin.at>)

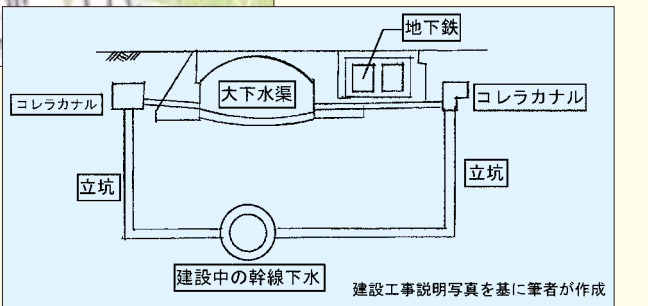


——ウィーンの下水渠(オーストリア ウィーン)



■ウィーン市街を通る下水渠

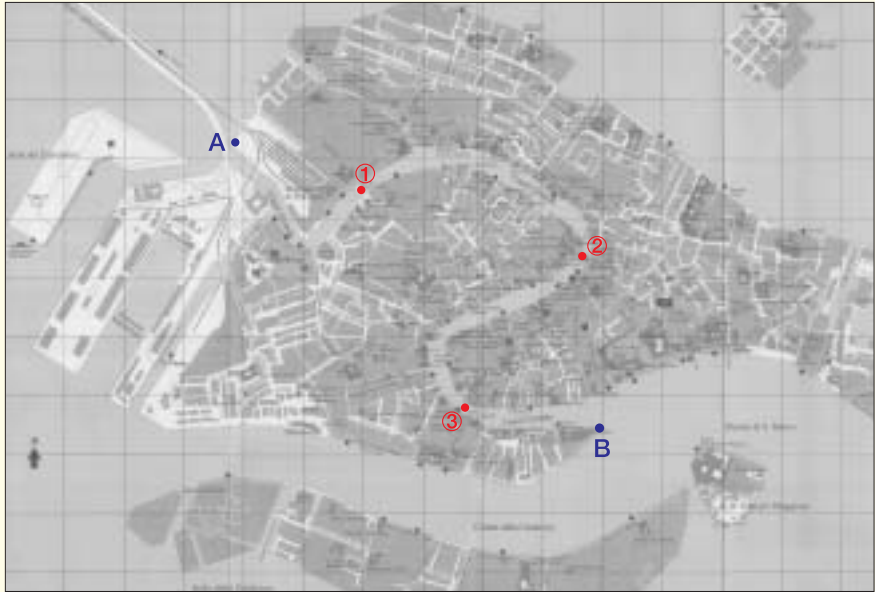
- ・完成：1890～1910年頃
- ・下水渠の延長：2.5km
- ・幅員：約15m
- ・内空：約8m
- ・ウィーン川の延長：32km
- ・集水面積：約230km²(ウィーン市の面積の1/3)
- ・流量は天候により大きく左右され、洪水時には常時の250倍となる。



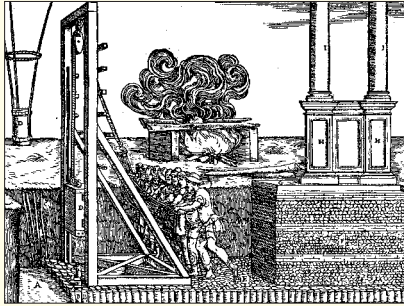
建設工事説明写真を基に筆者が作成



——カナル・グランデ(イタリア ヴェネチア)



- ・大運河(A～B点推定)
- ・延 長:約4.7km
- ・面 積:約43万m²
- ・平均幅:約90m



■人力による杭打ち工事絵図



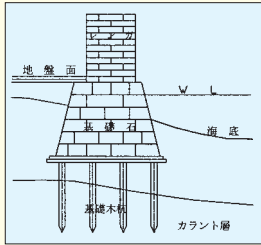
①スカルツィオ橋



②リアルト橋



③アカデミア橋

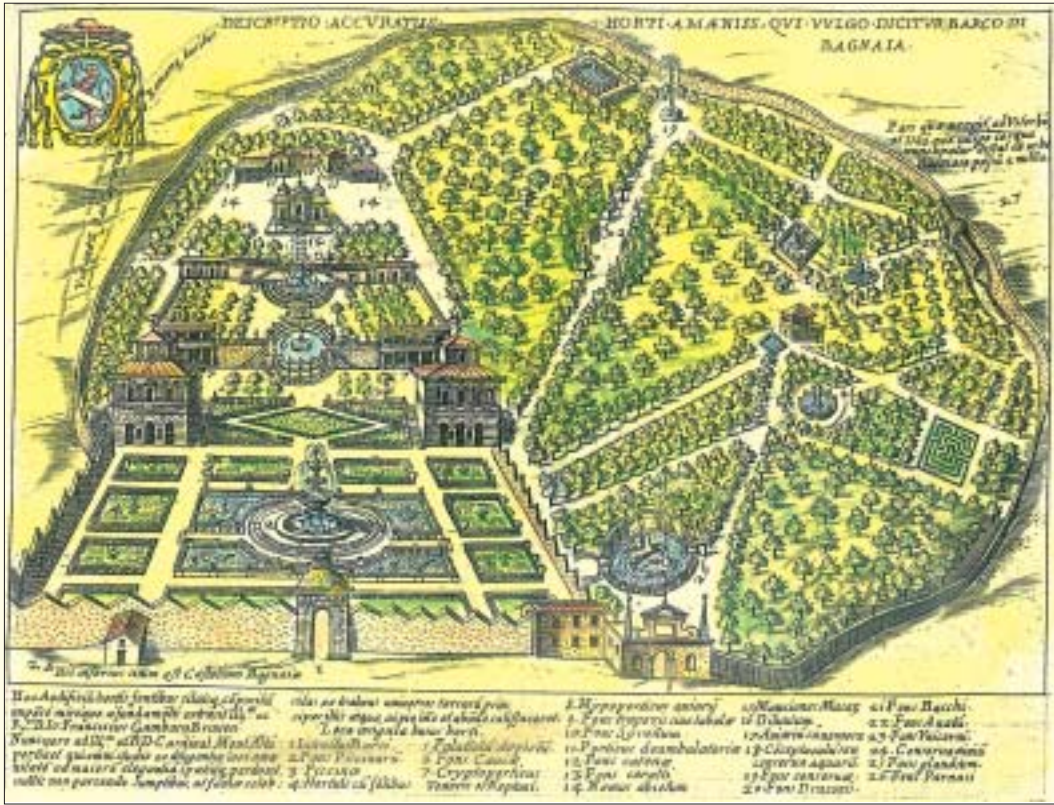


■運河護岸構造



——ランテ荘(イタリア ローマ郊外ヴィテルボ)

- ・建設年
1569年～1590年
- ・施 主
ガンバーラ枢機卿、
カージナル枢機卿
- ・設計者
ヴィニオーラ
- ・敷地総面積
約20万m²
- ・噴水の庭面積
約1.7万m²
- ・集水流量
当時 35ℓ/s
現在 7ℓ/s



■園内図(提供:国立美術考古学観測局 Giovanni Fattca)



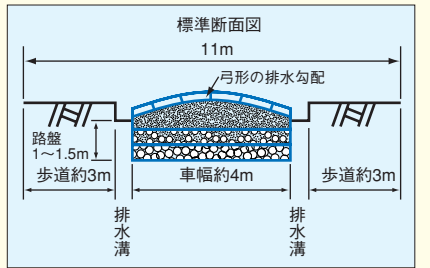
——アッピア街道(イタリア ローマ)



■中世のローマ街道とローマのイラスト図

アッピア街道

- ・延長
ローマ～プリンディシ間の約600km
- ・総幅員
約11m



- ・施工期間
70年(紀元前312～242年)
- ・発案者
アッピウス・クラウディウス
- ・施工者
ローマ軍隊

〈地図出展〉
<http://www.lib.utexas.edu/maps/europe.html>

ランテ荘の未公開エリアを訪ねて

古い町並みが残るこじんまりとしたバニャイアの街は、取材終盤を迎えた我々を快晴で出迎えてくれた。ランテ荘を案内してくれたのは、国立美術考古学観測局責任者のファティーカ氏である。挨拶後、ファティーカ氏の解説でランテ荘内の取材が始まった。

ランテ荘の2つの建物内部は、復元中であり一般には公開されていない場所である。しなしながら、はるばる日本から取材に来た我々の熱意が通じたのか、非公開の建物を見ることができ、当時の様子を伺い知ることができた。また、建物最上階から鳥瞰的に庭園を眺める機会にも恵まれた。さらに、本来撮影が許可されていないフレスコ画も撮影させて頂いた。これらは、我々取材班にとって貴重な資料となったことは言うまでもない。

庭園の案内の時には、「記念写真を撮ろう」と誘われるままに“たまり場”のような所に整列させられ、撮影と同時に突然周囲の地面から水が吹き上げ、とても驚かされた。ファティーカ氏は、「昔の人達もこんな風楽しんだんだ」と我々のあわて振りを見て喜んだ。

我々は思いがけない厚遇に驚きと嬉しさ、そしてびしょぬれになったことにちょっぴり悔しさの混じった、とても有意義で楽しい取材となった。ファティーカ氏は、当時のランテ荘のホスト役を演じてくれていたに違いない。



■国立美術考古学観測局責任者のファティーカ氏と通訳の花川規子氏



■ランテ荘のフレスコ画